



DEOS協会 概要

名称・略称

一般社団法人 ディペンダビリティ技術推進協会

略称: DEOS協会

役員

理事長 所眞理雄(株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所)
理事 松田晃一(独立行政法人 情報処理推進機構)
理事 山浦一郎(富士ゼロックス株式会社)
理事 屋代眞
理事 竹岡尚三(株式会社アックス)
理事 平鍋健児(株式会社チェンジビジョン)
理事 中川雅通(パナソニック株式会社)
理事 坂田洋幸(株式会社エヌ・ティ・ティ・データ)
監事 佐々木栄美子

目的

DEOSプロジェクトの成果を産業界でご利用頂く
産業界や社会の要請に応じて成果をさらに発展させる
企業が開発・運用するシステムのディペンダビリティ向上に寄与する
ディペンダビリティ技術を扱える人材を育成する
豊かで安全・安心・快適なICT社会の実現を目指す

事業内容

ディペンダビリティ技術の研究開発を促進するための事業
ディペンダビリティ技術の普及・啓発のための事業(教育資料の販売、認証などを含む)
ディペンダビリティ技術にかかわる事業の創生・発展を支援するための事業
前各号に附帯又は関連する一切の事業

会員種別	会員数
正会員(企業)	25社
学会会員	16名
賛助会員	4団体

2016年3月現在



主な活動

ディペンダビリティ技術の実用化・普及

論証・合意形成等の技術

- D-Case部会（ゴール思考の表記を用い、合意議論を深め経緯の記録に有用な技術）
 - 仕様策定・研究会（最新動向・事例紹介・意見交換等）開催
 - 2016年度よりワークショップ開催予定
- 技術部会（合意記述の為のデータベース、履歴・整合性・共有等に有効な技術）
 - 利用可能なD-ADD実装製品の紹介
 - ユースケースを意識した実装製品への改良検討
 - 2016年度よりD-ADD技術定義の再構築及び標準化

普及活動

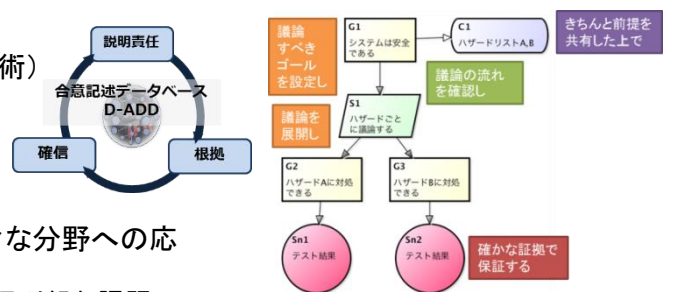
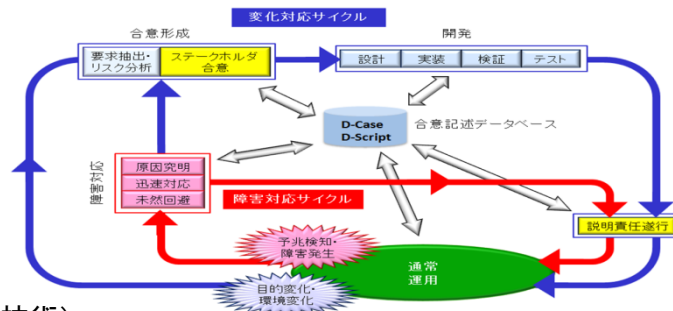
- OSD部会（DEOSが推進するオープンシステムディペンダビリティ(OSD)の様々な分野への応用可能性の調査・検討活動を実施）
 - 過去の検討テーマ：「車載組込み開発の状況」、「プラント構築・管理企業の取り組む課題」、「家電・ロボットの信頼性、安全・安心について」、など

国際標準化

- 標準化部会（国際標準化を推進する）
- IEC 62853 Open Systems Dependability
 - IEC TC56 WG4として、DEOS協会標準化部会のメンバーが中心に日本主導で検討
 - 2016年の刊行を目指す

認証

- 認証部会（DEOS基準を満たすツール、システム、教科書、研修プログラムなどを認証する）
- D-Case認証
 - D-Caseに有用な、教育・ツール等の基準を制定及び審査し認証を行う
 - 2016年3月現在 認定2件、申請中1件
- D-ADD認証
 - 2016年度中の申請開始に向け、基準作成中



レファレンス実装			
価値の成文化			
	標準	内容	DEOS成果
ディペンダビリティ要件標準	IEC62853 IEC60300-1	OSDを持つライフサイクル	DEOSプロセス
	ISO/IEC15026 IEC62741	ライフサイクルが備えるOSDのアシュランス	D-Case手法
	OMG Spec SACM	電子化アシュランスケース	D-Case editor
ツール標準	OMG RFI MACL	機械的に検査可能なアシュランスケース記述言語	D-Case in Agda
		OSDを持つライフサイクル遂行の技術的支援	DEOS Arch. D-Script, D-ADD, D-RE, D-Bench, ...





まとめ

- DEOSの利用が、ISO26262、自動運転、医療機器、IoTなどの応用分野を得て、D-Caseのみならず、D-ADDを用いたプロセスの適応へと進んでいる。
- DEOS協会を通して普及・発展を推進し、将来の社会設計の基本概念・基盤技術として世界に貢献する。
- Open Systems Dependability 2nd EditionがCRC Pressより刊行。

DEOS協会

<http://deos.or.jp>

